

vegeta 新聞

夏作キャベツの結果発表！

キャベツの収穫は高野町をほとんど採り終わり、口和圃場での作業に移りました。夏作キャベツがほとんど終了したため、収穫結果を表にまとめました。今年は、高暮地区から栽培し、高野2工区、毛無中電工や高野毛無山でも多くのキャベツが収穫できました。栽培リーダーの重森さんによると「感覚的には昨年の倍ほどとれた。通常だと半日収穫して、半日草刈りなどの別作業となるが、1日収穫作業をした日もあった」とのこと。品種はやはり暑さに強い「あじたま」が良く、雨の少ない時期もありましたが、夏後半では毎日のように夕立が降り、天候にも恵まれ良い結果となりました。

除草剤も効きが良く、例年ほど草に負けてしまうキャベツが少なかったです。秋作の川北町や口和圃場でも大きいキャベツが成長しています。

販売担当の赤羽さんによると、「例年キャベツの量が少なくなる夏場でも、契約先に継続して出荷できた。」また、秋は九州地方でもキャベツの収穫が全盛期となり、市場への出荷量が増え価格が下がることが多いですが、「今年はこの時期でも価格が下がらず、反対に上がった。そのため、なるべく市場へも出荷して売り上げを上げたい。」

このことでした。

圃場グループ	収穫量		収穫重量(kg)		圃場面積(a)	反収(kg/a)
高暮	565	ケース	11300	85500	382	2238
	212	基	74200			
高野(毛無)牧場含む)	118	基	41300	41300	183	2257
中電工	410	ケース	8200	42850	219	1957
	99	基	34650			
高野2工区	503	ケース	10060	45060	156	2888
	100	基	35000			

定植作業では、福山市の神辺で圃場準備と定植作業が進んでいます。この地域のキャベツは冬を越し、来年の3~4月頃収穫予定です。人手が減り、若干作業の始まりに遅れが出てしまいましたが、おおむね順調。この後、サツマイモを収穫後の大橋団地や御領駅でも定植に入る予定です。



【収穫中の口和圃場】



【定植の進む福山圃場】

2022年夏作

129,850kg
1,289a

2023年夏作

214,710kg
940a



前年比 **約1.6倍**



石拾い 代行事業



サービス価格

70万円~/1ヘクタール

※圃場の形と面積により変動あり

作業条件

- ①畑の土が完全に乾いていること
- ②畑まで機械をもって通れる道があること



石拾い

サービススタート！

9月30日に広島市安佐北区白木の農家さんからのご依頼で、石拾い事業初の出勤がありました。vegetaでは現在、石除去の機械を3台保有しています。

- ストーンクラッシャー
(石を粉々に砕き砂にする)
- 石寄せ機ストーンディガー
- 石拾い機ストーンピッカー

安芸高田市の高宮圃場で石が多く、トマト収穫機の故障が多発したことから導入となりました。同じく収穫機械などを使用して機械化したいのに、石が多くて困っている農家さんの声を聞き、石拾いの代行事業をスタートした流れとなっています。

今回は清水さんが機械と出勤！石の多さから拾っては畑の土がなくなるとのことで石を砕く作業となりました。もし知り合いの農家さんでお困りの方がおりましたら、ご相談ください。

サツマイモ収穫機は大好評！

10月23日からサツマイモの収穫が始まりました。昨年までは芋堀機を使用して掘りだした後、人の手でコンテナへ入れて運んでいましたが、今年からは収穫機を導入しました。このサツマイモ収穫機「ポテカルゴ」を使用すると、機械に座った状態で堀上げ・選別・コンテナ詰めが3作業ができます。操縦者1人、選別2人の合計3人で対応でき、収穫スピードも上がりました。しかし、機械の先端の刃を土に入れる時に浅すぎると芋を切ってしまう、深く入りすぎると土に引っ掛かり進まなくなるため、少しコツが必要です。大橋団地のように圃場内が坂になっている場所は、この微調整に苦労しました。収穫量は獣害の無かった圃場では良くとれています。

販売担当赤羽さんによるとヒバ食品さんで干し芋に加工された後、エブリイ可部店、緑井店、楠の木店の3店舗で販売予定とのこと。知り合いがお近くに住んでいる方はぜひお勧めしてみてください。



【ポテカルゴでの作業】



【今季収穫のサツマイモ】

デントコーン 高野町での収穫が終わり、残る収穫は持丸地区だけとなりました。持丸地区は標高が高く、11月には霜が降りることがあるため、霜が降りるのが先か、デントコーンの実が付くのが先かの狭間にあります。もし、実が付くより先に霜が降りてしまった場合でも、畜産農家さんからは草の部分の需要もあるため収穫には入る予定です。高野町では熊の害が発生してしまい、収量が下がってしまいました。メッシュ柵はあるのですが、やはり電気柵でないとダメなようです。もともとクマの多い地域ですので、来年はソルゴーなどの別の品目の栽培を検討中です。熊害の発生についてはRCC（テレビ新広島）さんも取材に訪れ、取り上げられました。インターネットから放送内容が確認できますので見逃した方は、どうぞこちらからご確認ください。



<https://news.goo.ne.jp/article/rcc/region/rcc-761351.html>

虫×日本人×農業の不思議

原ちゃん小話

虫の声が分かるのは日本人とポリネシア人だけという話を知っていますか？セミの「みーんみーん」や鈴虫の「りーんりーん」という声は、日本人は左脳の人々の声を認識する時と同じ部分で処理しており、その他の大勢の人々は右脳で雑音として処理されているそうです。確かに日本アニメをみた海外の方からの反応で、(おそらくセミの鳴き声に対して)「ずっとノイズが入っていて不快」「私も」などとコメントがあったり、京都の鈴虫寺は海外観光客からは「騒音寺」と呼ばれてたりしているそうです。

そんな虫の鳴き声と農業の関係性について、昔の日本ではオカメコオロギが鳴き始めたら冬に向けてキャベツやほうれん草の種まき、ツクツクボウシが初めて鳴いたら秋ダイコンや秋コマツナの種まきなどの基準があり、人よりも気温や気候に敏感な虫の動きを参考に農作業を決めていたようです。

ちなみに原家では今年、カメムシが大量発生して困っています。



今年の冬はみかん農家へ出張！？

今年の冬は新たな取り組みに挑戦予定です。vegeta は夏の繁忙期の人不足を解消するため、ミカン農家さんは冬の繁忙期の人手不足を解消するために、互いの社員が行き来して助け合おうという計画です。今年の夏に vegeta の姉妹会社である(株)co-de に、大崎上島でみかん栽培をされている農家さんがドローンの教習を受けに来られました。その時に谷口代表と繁忙期の人手不足の話になり、このような取組に挑戦することとなりました。11月中頃から始まり、社員2~3人ずつで宿泊しながらの作業となります。1週間ごとにメンバーが入れ替わりながら、お手伝い予定です。反対に来年(2024年)の夏にはみかん農家さんの社員さんが数名ずつ手伝いに来られる予定です。

